



くすっ子

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

屈巢小学校だより

令和2年7月1日

No. 4

教職員の使命

令和2年5月29日、高田直芳 埼玉県教育委員会教育長から「教職員の使命と誇りを再認識しよう」というタイトルの教職員向けのメッセージが出されました。その中に、

皆さんも、「私たちは子供たちがいて初めて元気でいられる」ということを改めて実感しているのではないのでしょうか。ガランとした教室やグラウンドを見るたびに、教職員としての自分の存在意義のようなものを考えたことと思います。

という一節があり、まさにそのとおりだと思いました。2か月遅れの新年度のスタートでしたが、感染症予防等の制約はあるものの、本来の学校生活が戻ってきました。私も、担任をしていた時は毎年新鮮な思いで始業式・入学式を迎えました。子どもたちを迎えるに当たって教室の環境整備は妥協しませんでした。机や椅子のネジがギーギー鳴らないように工具で増し締めし、机の天板が古くなっているものは新しいものに取り換えました。古いラベル剥がし、床の掃除、窓ガラス拭き、蛍光灯や蛍光灯のカバーの埃も取りました。名言や絵画を掲示したり、花や植物も必ず置いたりしました。そして、学級開きには、学級経営方針を語り、ギターを弾きながら「これが青春だ！」(昔の青春ドラマの主題歌・歌 布施 明)を歌いました。今となっては懐かしい思い出です。屈巢小教職員も、度重なる休校の延長に子どもに会えない寂しさや準備のやり直し等で心が折れそうなときもありましたが、子どもとの出会いを楽しみに学習課題の準備や採点、コメント書き、教室の環境整備、授業の準備を入念に行い、学校再開の日を待ちました。

私たちは、子どもが好き、教えることが好きで教員になりました。大学等で教職課程を履修し教育実習を行い、規程の単位を取得し教員免許を授与されました。今まさに、教員の本領発揮といったところです。しかしながら、私たちは、経験年数にかかわらず、「教える」ことの難しさとその責任の重さを日々感じています。高田教育長も先のメッセージの中で、「先行き不透明な時代をたくましく、心豊かに生きていける子供たちを育てていくことが教育に課せられた使命である。」と述べています。

大学ではオンライン授業でも進めることはできますが、小学校では教師と児童との対面でなければできないことが多くあります。私も、若いころ、先輩の先生から「授業は講義ではない。子どもと創るものだ。」と何度も指導を受けました。やはり、目の前の子どもの表情を見ながらでないと、独りよがりの授業になってしまいます。また、授業は集団であっても子どもは一人一人ちがいます。私たちは、「学習指導案」という授業計画を毎時間立てて授業に臨んでいます。私は職員には「必ず子ども一人一人の顔を思い浮かべながら作成してください。」と話しています。苦勞して授業の準備をしたことで、子どもが「わかった」「できた」という言葉を言ったり、満足そうな表情をしたりしたときは教師冥利に尽きます。

「たくましく心豊かに生きていける子供たち」を育てるため教職員一丸となって邁進してまいります。

(校長 橋本 浩)